

癡 育 半 八 人

肢 体 不 自 由 兒

昭和三十一年七月、西部事業団と福岡県肢体不自由児協会の共催で、「手足の不自由な子らの臨海キャンプ」を同県柏原郡の志賀島小学校で開いた。この種の行事は九州では初めてで、事業団キャンプのスタートでもあつた。翌年の三十一年八月には、臨海キャンプと平行して全国でも珍しい「林間キャンプ」を八幡市の皿倉山で開催した。戦後十年が過ぎたとはいへ、まだ社会は閉鎖的で、障害者の子供を外に出すのを親はためらつていった。

指導にあたつたのは県肢体不自由児協会長で、九大医学部教授の天見民和氏や県立柏屋新光園の城戸正明園長はじめ小倉記念病院の専門医、看護婦、県内各大学のY M C Aの学生ら計約四十人。

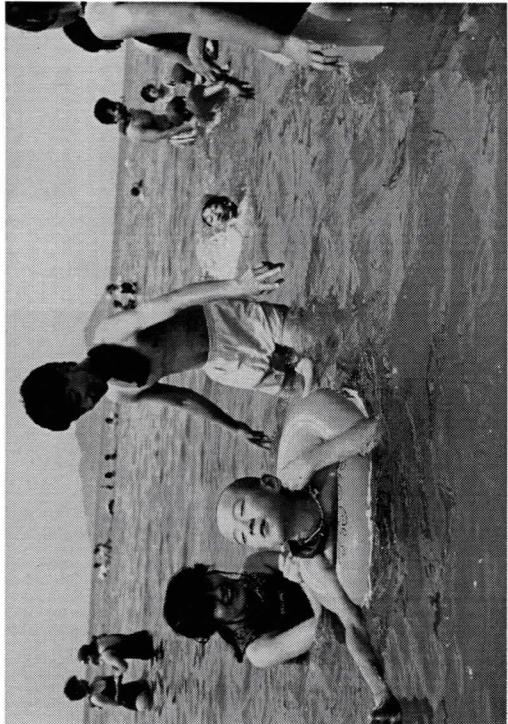
キャンプは大成功で、海では必死に手足を動かして歓声をあげ、山では歯を食いしばつ

て登山に挑戦した。この姿に城戸園長は「バスをはめたり松葉杖をつくのはメガネをかけるのと同じことだ。どうか彼らに残された能力を温かい目で見守って伸ばしてほしい」と語っている。二つのキャンプのうち、臨海キャンプは会場を福岡県玄海町の県立少年

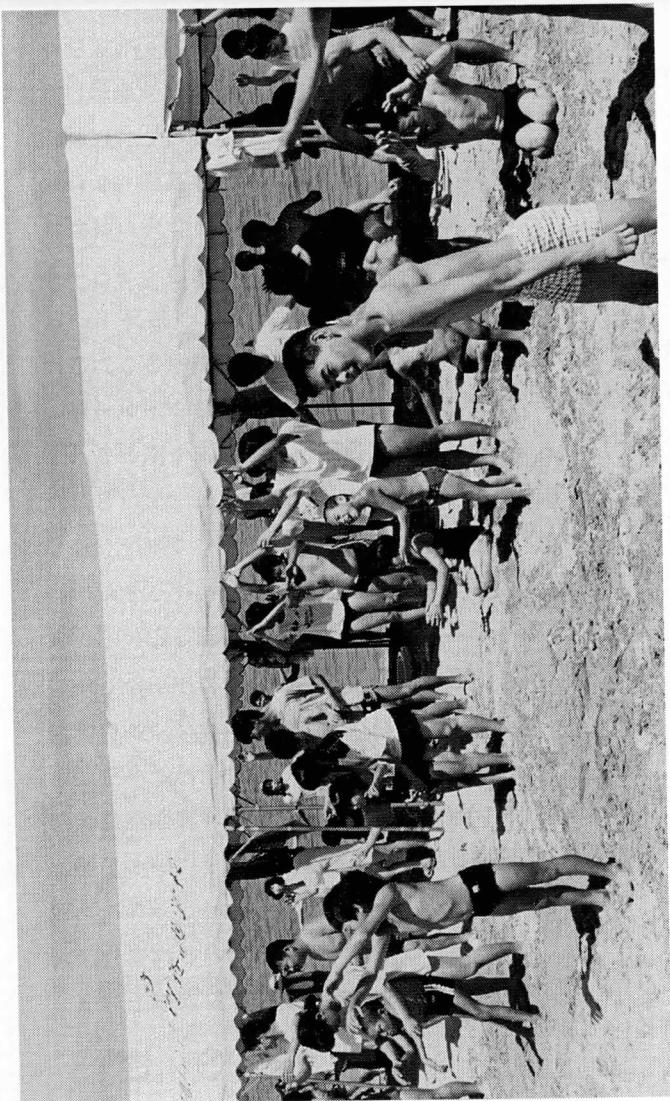


ヨット「メイキヤシス号」で海洋旅行中に志賀島を訪れた子どもたちを抱き上げて激励する併慶・森繁久彌船長（昭和36年7月、志賀島の県青少年海洋訓練所で）

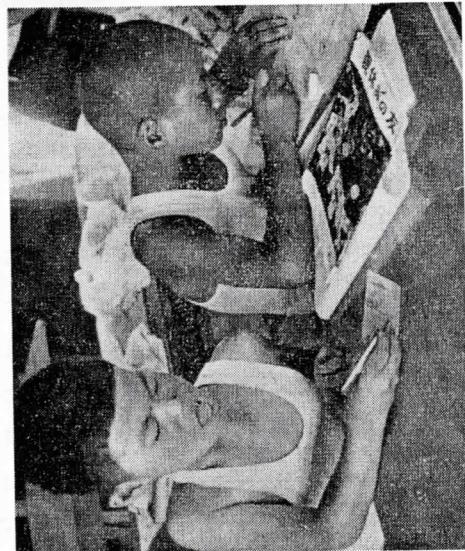
自然の家に移して現在も続けられており、平成十一年で四十四回目を迎えた。一方林間キャンプは、キャンプ場が大分県・九重に移設されたことから昭和四十三年で終わっているが、昭和五十一年度に朝日高原福祉センターで肢体不自由児キャンプを行なっている。



海は広いな大きいな、ハンディを忘れて楽しむ子どもたち（昭和62年7月、福岡県玄海町）



さあ準備運動だ（昭和62年7月、福岡県玄海町で）



全国でも珍しい林間療育キャンプ。さあ宿題だ
(昭和32年8月、皿倉山の福岡県立青少年野宮訓練所で)



うまくお米とげるかな
昭和41年8月、県立青少年野営訓練所で

手、足の不自由な児童が福岡県内に六千三百人
余り、その大半は早期に適切な整形外科的
治療を施すことなく、教育や職業能力を失え
てしまう将来、やりきつばな社会人として活動し得る

【どき】七月三十一日から八月四日まで(盆踊りキャンプ)八月一日から八月二十四日まで(体験キャンプ)
【どころ】柏原市都賀町小学校(盆踊りキャンプ)八幡市西田村立西田村野町郷土研究所(体験キャンプ)
【参加費一人×人】自分で歩行(所持金使用も可)でできる程度の小学生三年生から中学三年生まで在学中の児童貢うるおんと積極性不自由見は除く定員六人。
【指導専門】九大医学部大阪医学部同窓会ほか向教室員、呪術・御守・御神光学園長平井博士、吉永恭輔博士、小倉憲志院長松本義典、黒川義信院長、黒川義信院の各教員、県下各大学院

ヤフー会場までの往復旅費は
間に本人負担する。
締切】旨廿日、ただし
定員に達すれば以前に締

【申込】福岡市東行政区福岡市東区
久留米市内某所に於ける「アーバン
マーケット」の開催日程を下記の如く
定めます。申込締切は、開催日の前日
午後3時までとし、申込料は100円と
定めます。

賃用 八百円 宿食、食
料その他を含む 自宅から手
取事務所 増生薬業または堀井の
王華 福岡県立(彼)本不自由児協会

後援 潤昌國、日赤潤昌支部、國際ニオイズ
福岡、八幡市、同教育委員会、春香

島町、福岡済生会病院
N廿六福岡、小倉放送局、九州朝日放送、
エテオ九州、県指定瓦窯跡補修具製作業者

108